

病気は、やがてヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）、羊のスクレイピー、ミンクの感染症ミンク脳症（TME）、牛の牛スポンジ状脳症（BSE）と同じ症状の病気であることが明らかになる。この病原体がプリオンと呼ばれている。

次は、ジョンさんとベティさんから聞いた部族（tribe）の人々の話である。

一つの部族の人口は8000人から12000人である。一番大きな部族で70000人である。部族同志の言葉も違う。隣の部族との境界を越えることはできない。人々はその部族内で生まれ、生きて、死ぬ。部族の敷地は大体5マイル四方であり、彼らはそこで一生を終える。

隣の部族との境界を越えるのは戦いの時と結婚の時だけである。部族同志は常に戦いをしている。戦いに明け暮れる日々である。部族の男性の一生は戦士としての一生である。生まれた時から男の子は戦士になるために育てられる。子供の遊びもすべて戦士になるための遊びである。また部族間の結婚の場合は部族の長がお互いに話し合い、島ではとても貴重な豚を贈る。それ以外は部族間での行き来はない。しかし宣教師は部族間を行き来できる。戦いを止めて平和に生きることを伝えるのが宣教師の使命である。戦いを止めさせるためには、まず読み書きを教える。テキストは聖書しかないから、それをもとに読み書きを教える。聖書の教えによって徐々に戦いはなくなっていく。現在では戦いではなく部族長同志の話し合いによって問題を解決し、豚を贈ることで戦いを避けている。

また、親戚などに死者がでると喪に伏すために、子供は指の先を切断する風習がある。聖書の教えにより、死者は天国に行くから泣いて悲しめばそれだけで十分である。指を切断する必要はないと諭し、指の切断の風習はなくなった。子供が指に布を巻いている姿は痛々しいし、隣のおばあさんの指は5本とも先がなかったそうだ。

## 6 教会

2人の所属する教会は、The Christian and Missionary Alliance である。宣教師として行く国は自分で選ぶことができる。教会は行く国を強制しない。また活動する期間も自分で決めることができる。生活費は教会から支給され、世界のどこへ行くとも一律である。行く国の経済状況によって生活に差はありそうだ。しかし宣教師が行くのは主として非キリスト教国であるから支給される金額でやって行けそうである。また質素な生活を不自由には思わない人々である。ジョンさんもベティさんも質素である。資金源は、信者の寄附である。日曜日の礼拝はもちろん、いろいろな活動への誘いのパンフレットも含め、あらゆる場面で教会への寄附が求められる。

私たちが訪れたミネソタの Rose Hill Alliance Church もこの The Christian and Missionary Alliance に属している教会である。2人は現在このローズヒル教会に毎週通っている。ローズヒル教会で手に入れたパンフレット "What is The Christian and Missionary Alliance?" と "Called to Serve" をもとにこの教会について紹介する。

The Christian and Missionary Alliance is an alliance of evangelical believers, joined together in local churches, committed to fulfilling of the Great Commission given by our Lord Jesus Christ.

Our mission statement reads, "The Christian and Missionary Alliance is committed to world missions, stressing the fullness of Christ and preaching the gospel to the ends of the earth."

The Christian and Missionary Alliance is a missionary denomination committed to evangelism, discipleship, and church planting among unreached and responsive peoples worldwide.

要約すると、The Christian and Missionary Alliance は、キリストとその使徒たちの教えである福音（gospel）を熱心な伝導活動つまり福音主義（evangelism）によって世界の隅々にまで広めて行く宗派であるということである。